

開催報告 第12回北海道 MIST 研究会（中四国 MIST 研究会 合同開催）

2025 年 9 月 27 日(土)、第12回北海道 MIST 研究会（中四国 MIST 研究会 合同開催）を北海道函館市で開催させていただきました。今回の研究会は中四国 MIST 研究会のご協力のもと、両研究会が合同で医師・メディカルスタッフを含めて規模を拡大して開催し、最終的に 160 名のご参加をいただくことができました。

オープニングセミナーでは北海道整形外科記念病院の織田格先生から「ナビよりすごい!? 患者適合型ガイドを用いた脊椎手術」というテーマでご講演を賜り、多くの立ち見の参加者がいらっしゃる中、熱気に包まれた会場で研究会がスタートしました。

一般演題は 2 会場に分かれて進行し、5 セッション 28 演題のご発表をいただきました。特に「ご当地 MIST」・「内地の MIST」のセッションでは、北海道・中四国地区それぞれの推しが異なり、地域 MIST の独自性を垣間見ることができました。「骨粗鬆症・感染」・「メディカルスタッフ演題」・「若手演題」のセッションでもハイレベルなご発表をいただき、活発な討議が繰り広げられました。一般演題の表彰は座長による採点制を導入し、「特に優れている」と評価された 6 演題全てが選出されました。優秀演題賞には山下一太先生（徳島大学）、志渡澤央和先生（岡山大学）、釜場大介先生（北海道大学）、日向寺義則様（札幌脊椎内視鏡・整形外科）、高津大弥様（函館中央病院）、最優秀演題賞には佐藤知哉先生（函館中央病院）が選出されました。

ハンズオンセミナーでは 4 ブース（前後半）合わせて医師 17 名、メディカルスタッフ 22 名、のべ 48 名にご参加いただきました。「MySpine™、メダクタジャパン」では織田格先生（北海道整形外科記念病院）のご指導で、手術支援ガイドによるスクリュー固定を学びました。「PPS、日本エム・ディ・エム」は真子卓也先生（島根大学）の解説で模擬骨へのスクリュー挿入を体験しました。「FESS、ニプロ」では 山田勝久先生（北海道大学）により全内視鏡脊椎手術の基本手技を分かりやすくデモンストレーションしていただきました。「PETLIF、日本エム・ディ・エム」は山屋誠司先生（仙台西多賀病院）から実践的な技術指導が行われました。受講者アンケートではいずれも満足度が非常に高い結果で、明るく楽しい雰囲気の中で気づきや学びにつながったようです。

メディカルスタッフ講座では伊藤千怜様（島根大学病院手術部）から「脊椎手術における当院の工夫」というご演題名で、日頃の取り組みについてご講演をいただきました。

特別講演（共催：旭化成ファーマ）では、長濱賢先生（札幌脊椎内視鏡・整形外科）に「全内視鏡下 MIST 手術のラーニングカーブ（ヘルニア摘出～除圧～固定術と骨粗鬆症対策）」、中西一夫先生（川崎医科大学脊椎・災害整形外科学）に「骨粗鬆症/DISH に対して MIST

で挑む」というテーマで、本会発起人の北海道・中四国 MIST 両代表に熱く語っていただきました。

当番幹事をさせていただいた函館中央病院では、金山雅弘病院長・嶋村之利脊椎センター長をはじめ職員一丸となって準備を進めました。ラッキーピエロ、やきとり弁当などの函館ソウルフードを含めたおもてなしコーナーに力を入れるなど、和気あいあいとした手作りの研究会となりました。

研究会終了後には函館市・湯の川温泉の老舗旅館で懇親会（本音会）を開催し、68 名のご参加をいただき、白熱した議論を通してさらに親交を深めました。当日は天候にも恵まれ函館山での夜景など異国情緒あふれる港町函館を堪能していただけたご様子で安堵しております。

本研究会では北は旭川市、南は高知市、西は福岡市まで東北・関東・関西を含め、幅広い地域からご参加をいただくことができました。お陰様で情熱を秘めた北海道の若い世代が皆様と親睦を深める良い機会になったのではないかと存じます。

次回（2026 年）の第 13 回北海道 MIST 研究会は、山田勝久先生（北海道大学）が当番幹事として開催予定です。是非ご参加をお願い申し上げます。

最後になりましたが、本研究会の趣旨にご賛同いただき、多大なご支援を賜りました数多くのご協賛企業様に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

当番幹事 河野通快（函館中央病院）

